

PC専用インシュレーターPSI-1000の活用(10) —TELEFFUNKEN L61 での確認—

1. はじめに

[前報\(9\)](#)に引き続き、スピーカーをTELEFFUNKEN L61に替えて効果を確認していくことにしました。

2. PSI-1000 の試聴方法

前報(7)で確認したスーパーツイーターの設置方法をそのまま踏襲し、TELEFFUNKEN L61 と平行に結線します。設置状況は前報(7)の写真を参照願います。TELEFFUNKEN L61 とスーパーツイーターが離れていて最適の条件とは言えません。

駆動アンプは Leak Pont1 と IPC AM1029 とします。

音源は、ベルリンフィルデジタルコンサートホールの再生、BS録画の再生、FIDATA HFAS1-S10による11.2MHzDSD音源再生とBRD-UT16WXからのCD再生、アナログ再生とし、PSI-1000の適用はそれぞれに対してFAL C90EXWで実施してきたとおりです。

3. PSI-1000 の試聴結果

TELEFFUNKEN L61 は元来開放的な鳴り方をしますし、組み合わせたアンプも米国のIPC製のアンプですから大らかな鳴り方をしますが、スーパーツイーターが加わったことで、より緻密な表現も加わってきています。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールの再生では、さすがにドイツのスピーカーでドイツのオケをかつちりとバランスの良く鳴らしてくれます。

BS録画の再生では、多少おおらかな鳴り方が、スーパーツイーターが加わったことで、緻密で細かい音も出るようになっていきます。

FIDATA HFAS1-S10 による 11.2MHzDSD 音源再生では、これまでになく明晰でDSD音源らしさが出ています。

FIDATA HFAS1-S10 による BRD-UT16WX からの CD 再生では、これまでの条件でのCD再生と一線を画した艶やかで緻密な音になっています。

アナログ再生では、繊細なアナログらしさの表現をしてくれます。古いスピーカーだけあってアナログ再生の相性が良いようです。

4. まとめ

TELEFFUNKEN L61 において最近実施してきた種々の対策に加えて、PSI-1000 の効果を確認することができました

以上